

平成30年度 第1回森町総合教育会議 議事録

1 日 時 平成30年6月8日(金) 午後1時30分～午後2時29分

2 場 所 森町文化会館 第2研修室

3 出席者 森町長 太田 康雄
森町教育委員会
委員長 井口 始
委 員 村松 加代子
委 員 鈴木 眞子
委 員 早馬 保男
教育長 比奈地 敏彦

(説明出席者)

学校教育課長	西谷 ひろみ
学校教育課長補佐	塩澤 由記弥
学校教育係長	土屋 智也乃
庶務係長	岩井 秀司
社会教育課長	鈴木 富士男
社会教育課技監	北島 恵介
社会教育課長補佐	松浦 博

4 議 事 (1) 本年度の森町の教育について
(2) 森町学校のあり方について

5 傍聴人 2人

6 議事の概要

学校教育課長 開会

町長

先日、静岡文化芸術大学の横山学長のお話を伺う機会があり、懇親会の席でお話をさせていただきました。静岡文化芸術大学では、文明観光学コースの設置を計画している。横山学長によると、「観光は国の光を見るもので、文明は天地人が文なして明らかなこと、徳や教養のあること。文明観光学については、文明なくして観光なし、観光なくして文明くすむ」と話されている。

この話の後で、森町のことも話させていただきました。横山学長は、京都出身で京都大学の副学長も経験され、一昨年文化芸術大学の学長を務められている。森町には、興味を持っているが、まだ訪れたことはないとのこと。懇親会の席であり、十分な説明をする時間もなかったため、後日訪問した。観光パンフレットや図説森町史など、あらゆる資料をお持ちした。当初1時間の予定だったが、学長も非常に熱心に見ていただき、2時間ほど話をさせていただきました。

一層、森町の歴史文化を感じ取っていただいて、森町を訪れてみたいと言われた。良い関係ができて、森町の文化振興の助けになっていただければと思う。

5月6日に北海道森町の桜祭りに出かけた。本年は友好50周年ということで、「森小町」という北海道森町の固有種である桜の苗の植樹を行った。こちらから北海道森町に贈るため、北海道森町の森八景という風景を詠んだ短歌を杭迫柏樹先生に作品にさせていただいて、現在製作を依頼している。もりもり2万人まつりにてお渡しするセレモニーを行う。

北海道森町の梶谷町長は、静岡県森町には、深い歴史があり、北海道森町にはないものであると言われている。その森町の文化の一つとしてお伝えできればと思う。

本日は、平成30年度第1回の総合教育会議ということで、昨年度1年かけて検討いただいた「森町学校のあり方」について、本年度方向性を示すと議会でも申し上げている。本日は、その第一歩としての開催となるため、より良い学校のあり方について、忌憚のない意見をいただきたい。

委員長 本日の議事にある「森町学校のあり方」については、いろいろな所で話題になっているが、本日が当事者会議の最初の会議となる。

教育委員会としては、定例会の議事とは別の場所で、何度か情報交換や意見交換をしてきた。将来の学校づくりが具体的に出発することになるので、よろしく願いたい。

学校教育課長 議事進行を町長にお願いする。

町長 議事(1)本年度の森町の教育について、事務局から説明をお願いする。

学校教育課長 本年度の森の教育の重点事業について、学校教育課・社会教育課について資料で示してあるが、教育委員の皆さんには、既に承知いただいている内容であり、冊子「森の教育」の作成時に詳細について協議いただいたもの。また、町長におかれても、各事業へ理解をいただき、予算付けいただいているため、事業の説明は省略し、進捗状況について説明する。

学校教育課では、本年度は新規事業が多くある。

通級指導教室「そよかぜ」を森小学校に設置した。対象者として森小学校をはじめ、飯田小学校、宮園小学校の児童が通っている。県費非常勤講師1名が配置され、町で指導員1名を配置した。

不登校支援センター「わかば」を設置し、火曜日、水曜日、金曜日の午前中に開設、指導員2名により運営している。現在、中学校の生徒が来ている。不登校の生徒には、スクールカウンセラーや学校の養護教諭等と連携をとって、こちらに来てもらえるよう働きかけている。

外国語教育推進事業としてJETプログラム活用によるALT配置を実施。4月から森小学校と三倉小学校にはリンダが、宮園小学校と天方小学校にはケイが訪問。毎週金曜日の午後は文化会館にて研修を行っている。ケ빈は派遣業務委託で飯田小学校に訪問するが、JETのALTの指導のため、各小学校も訪問している。8月からは、中学校担当として、パトリックとカルメンが来日される予定。

いじめ防止の対策として、本年度からネットパトロール事業を開始。偶数月に実施する予定で、第1回目として、32件の報告があった。

広島平和記念式典へは、旭が丘中学校から2名、宮園小学校から2名が参加。引率は、旭が丘中学校教諭、宮園小学校教頭、事務局の計3名で対応。

北海道森町児童生徒友好親善訪問事業は、本年度、友好町締結50周年のため、教育長も訪問する。今後、学習会が開催される。

学校施設整備事業としては、森中学校ランチルーム空調設備整備事業が6月5日に完成した。

天方小学校グラウンド整備事業は、学校と打合せのうえ、7月上旬から工事を開始する。

宮園小学校水泳プール改修工事として、6月議会に補正予算を上程する。

トイレ洋式化、遊具・体育設備改修、門扉・サッシ等修繕等、学校と相談のうえ、順次実施する。

預かり保育は、飯田幼稚園12人、園田幼稚園17人、一宮幼稚園11人、森幼稚園25人、天方幼稚園2人が利用。運営の難しさがあり、全園で実施する中で課題が出てきた。

社会教育課長 社会教育課は、主な点のみを説明する。

生涯学習推進事業として、幼稚園・小学校・中学校で行っている家庭教育学級を、町内の民間保育園2園のうち1園で取り組みを開始し、5月29日に開級式を行った。

文化振興関連事業として、文化協会との共催で文化講演会を8月4日、午後1時30分から「遠州森町良い茶の出どころ」と題して、元公立高校校長で元静岡県史編纂室長をされていた中村先生に講演をいただく予定。

文化財保護事業として、歴史民俗資料館屋根の修繕を実施しており、今月末に完了予定。

図書館事業、「ブックスタート事業」は、今年度の新規事業で、偶数月に保健福祉課で行う6か月相談に合わせて行う。本日2回目を行った。

文化会館事業の自主事業として、先日落語を開催した。本年度14公演と1作品展を実施する予定。作品展は、先週「森の炎」を開催した。

照明設置LED化工事の3期目が、今月中に終わる見込み。

体育館事業は、現在、町営グラウンド給水管修繕の工事を行っている。

町長 事務局からの説明について、質問等あるか。

町長 ネットパトロールの32件の報告については、想定より多かったか、少なかったか。

教育長 一般的な中学校と比較して少ないと思う。常時行う自治体が多いが、本町は、限られた回数で行っている。内容については、大ごとになるような内容はなく、いたずらのようなものが多い。

学校教育課長 リスク度や緊急度といった判定項目については、ほとんどが低い判定だった。リスク度が高いものが1件あった。

町長 議事(2)森町学校のあり方について、事務局から説明をお願いする。

教育長 3月議会で、本年度中に方向性を示すという町長の答弁があったが、これを受けて教育委員会としても、検討を行ったので、これまでの経緯から説明する。

森町学校のあり方検討会については、昨年度、22名の委員に参加いただいて6回開催し、3月13日に委員長に答申を提出いただいた。これを受けて教

育委員会としては、協議会等を何度か開催し、意見交換を行った。また、5月には、先進地を視察訪問し、意見交換を行う中で、あり方について確認した。

平成27年1月に国から発行された公立学校の規模の適正化についての手引きにより、各自治体においての主体的検討が強く求められた。森町においても、平成27年度から、まずは、小規模校を抱える中学校区の保護者の声を聞く意見交換会を行うとともに、町長と語る会や地域懇談会等でも主体的検討の具現化に努めてきた。このような中、あり方検討会の答申が提出されたので、これらを受けて、教育委員会としての方向性を示すために、検討を行ってきた。

各教育委員の意見を確認し、教育現場の現状、保護者や地域の声、地域コミュニティのあり方、学校経営上の困難度、町当局の施設の耐久年数、学校教育施設が占める建物の延べ床面積、町財政等も結論を出す上での資料とした。

その上で、教育委員会として特に重要であると理解いただいた点について、1つ目が、あくまで町全体の視点を重視して考えることが大事であるという点。2点目が、「明日の森町を築く心豊かな人づくり」の教育理念に基づき、新しい時代を生き抜くことができる子供を育成するために、学校はどうあるべきかを考えるということ。3点目が、地域コミュニティのあり方、地域の活性化等、地域社会への影響も考えなくてはならないが、教育委員会の立場では、学校の主体である児童・生徒の「人間としての成長」に視点をあてた考え方を優先したいということ。4点目が、今のことを大事にしつつ、将来の森町の学校のあり方についての視点を持つことが必要であるということ。さらに5点目として、統合した場合の学校施設の「跡地利用」については、できうる限り子供に関わる施設等を想定したいということをお話してきた。

まとめるにあたり、文部科学省が発行した手引きに明記された「義務教育段階の学校では、単に教科等の知識や技能の習得だけでなく、集団の中で多様な考えに触れ、切磋琢磨することを通じて、思考力や表現力、問題解決能力を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要であり、そうした教育を十全に行うために、一定の規模の児童生徒集団の確保や経験年数、専門性等、バランスのとれた教職員集団の配置が望ましく、一定の学校規模を確保することが重要」という点を再度確認した。様々な人が様々な考え方や思いを持っていることを確かめながら、森町に住む子供たちの健やかな成長のために、どのような学校像を描いたら良いかを検討してきた。

その結果、森町教育委員会が示す方向性として、中学校については、教育活動への影響、学校運営上の困難さ、保護者の声、子供の発達段階、教育の質の向上等を鑑み、現在3校ある中学校を近い将来1校に再編するのが望ましいとした。この近い将来とは、児童生徒数の推移や建物の老朽化の状況を考慮する必要があるが、10年前後の期間と考えている。ただし、喫緊の課題を解決するため、未来に向かっての第1歩として、泉陽中学校を森中学校に統合する必要があると考える。

小学校については、完全複式学級と部分複式学級という形態をもった学校が2校あるが、メリット・デメリットを踏まえても教育活動や学校運営に課題のある複式学級を解消する必要がある。まず、最初の1手として、三倉小学校及び天方小学校を森小学校に統合することを考えた。

現在の推計では、子供の数が大きく減少することが予想されるため、更なる再編を行うことも必要であり、その際には、小学校及び中学校をあわせて小中一貫校とする選択についても検討する必要がある。森町で一貫校1校とするか、中学校区ごとに一貫校となるか、または中学校を1校とするかは、人口規模に応じた学校の適正配置を基本に考えた。

幼稚園についても、小中学校と同様に人数の減少が見込まれることから、幼稚園の再編についても引き続き意見交換を行い、状況によって再編を行う必要があると考える。

町長

冒頭の挨拶でも述べたが、昨年度、学校のあり方検討会を実施していただき、3月議会の一般質問で、平成30年度中に結論を得ると答弁しているため、それに沿って今回第1回目の総合教育会議を開催した。第1回であるので、まずは、学校のあり方検討会から教育委員会へ提出された答申を受けて、教育委員会で協議した結果を町長として受け取った。今後、町長部局で関係する課を交えて協議をしていく必要がある。

少し例えは違うが、先日、水害について講演があった。地震は、すぐに被害が発生するのに対して、水害は、雨が降って増水していくため、被害までに猶予時間がある。ところが、その猶予時間を有効に使えていない。人間の特性として、リスクを過小評価しやすいという特性があり、「まだ大丈夫だろう」と判断を先送りすることがある。また、「過去に大雨が降ったが、あの時、あれだけ雨が降ったが大丈夫だったから今回も大丈夫だろう。」と過去の経験に則って判断して、手遅れになるということがあるが、猶予時間を有効に使うことが大切であるという内容であった。

今回の講演は、水害についてであるが、どのようなリスクであっても、問題を解決するときに、判断を先送りしてしまう、直視したくないというのが、人間の本性としてあると思う。学校のあり方についても、これまでも問題意識はあったが、具体的なところに踏み込めなかったと思う。それを昨年度、学校のあり方検討会を6回開催して進めてきた。いろいろな意見があり、すべての人に十分な納得を得る答えを導き出すのは困難だが、その中で最善の方法を探っていくための検討が始まっており、数か月で結果を出していく必要がある。

先ほど教育長から、教育委員会の立場では、学校の主体である児童・生徒の「人間としての成長」に視点をあてた考え方を優先したいと説明があった。地域の皆さんの思い、また、行政側として施設管理の問題等、考慮しなければいけないことはあるが、児童・生徒の「人間としての成長」に視点をあてた考え方を最優先したいということについては、私も同じ考えであり、その視点に立って検討を進めたい。

教育長

先ほどの説明に1点補足する。泉陽中学校を森中学校に統合する時期については、教育委員会として平成32年度にできると良いと意見をまとめた。小学校については、両校とも複式を行っており、カリキュラムを確認して未履修が発生しないようにするために、時期を学校に確認中。この結果によっては、町単独で複式解消のために、期間を限定して講師を任用することが必要となるケースもある。カリキュラムの確認を受けて、今後、正式な年度を報告する。

町長

より具体的な、目標年度が示されたことで、具体的に進めていく必要性を感

じている。まずは、泉陽中学校と森中学校の統合が喫緊であり、三倉小学校と天方小学校と森小学校の統合についても、それに次ぐ課題であるということだが、これで完成ではなく、10年前後の近い将来を見据えて、中学校も小学校も考えていかなければならないということ。泉陽中学校と森中学校の統合を飛び越えて1つにという意見もあると思うが、拙速にはできないという意見もあり、慎重に判断したいと思う。社人研で示された森町の人口予測に対して、町で人口ビジョンを策定して、人口減少を如何に緩やかにしていくかという対策を行っている。近い将来を見据えながら、現状を解決していかなければならない。日本の教育も変革期に来ており、周辺市町でも一貫校や夏休みの短縮などのいろいろな取り組みがされているが、その成果が見えていない中で、一足飛びに判断するのもどうかと思う。周りの動きに乗り遅れてはいけないが、それに惑わされることなく、森町らしく森町にあった形にできればと思っている。

とは言っても、平成32年4月という目標が示されたため、スピーディに進めないと厳しいと思われる。早急に町長部局と教育委員会で必要な事項を協議しながら具体的に進めたい。また、今年度の総合教育会議は、あまり間隔を空けず、必要に応じて複数回開催しながら、皆さんと共通認識を持って進めたい。

委員長から意見を伺いたい。

委員長

先ほど教育長から説明のあった方向性は、教育委員会の統一見解であるが、止むに止まれぬ統一見解という面もある。諸事情を勘案して、痛み分けをするところもあるが、最後には、喜びを分かち合う姿を先に見ながら出したベストな方向性だと皆が感じている。

その中で、私としては、教育的な配慮を抜きにしては、考えられないと思っていた。その1つが「切磋琢磨」という言葉が、教育長の説明や文部科学省の手引きの中にもあるが、子供の育ちとは、集団の中で励まし合ったり、鍛え合ったりして、それによって高まりを見せたり、協調性を覚えたりする大きな役割があるというのが考えの前提にある。もう1点は、教育とは段階にそって計画的に行われるべきものと考え。子供が大人になるまでの育ちということを見ても、幼児期、少年期、青年期という段階に応じてそれぞれの施策がある。学校教育においても段階を追うことが必要だと思う。車の変速機で例えると、最初はローから、スピードに応じてギアをシフトアップしていく。最近では、無段変速機が多くなり、乗っていてもいつ切り替わったのか知らないうちにスピードが出ているものもある。しかし、子供の育ちで見ると、段階が1つの達成感にも繋がっている。小学校6年間の教育が終わり、次のギアへシフトアップするという目標になり、やる気や励ましにもなる。そのような積み上げで成長へ繋がると思う。

将来的には、究極の姿として、小中一体となるという学校もあり得る、または、ならざるを得ないという状況がある。学校として切磋琢磨できる必要最小限の環境確保の限界を下回った場合には、そのような姿に行き着くしかない。

それを先のこととして見通すことは重要なことだが、そこへ行くまで、数が保てるまでは、幼小中の段階は保った方が良いと思う。ただ、人口に関わる問題であり、やむを得ない時があるかもしれない。教育にとっても行政にとって

も人口増が重要となると感じている。

村松委員 学校訪問で学校現場を見たときに、子供たちを通して、変えていかなければいけないと感じた。複式学級で学ぶときに、天方小学校については、1年生が入学するときに、その人数によって複式学級の編制が変わる。ギリギリになって組み合わせを変えなければならないという大変さを先生方から聞いており、子供たちも、学ぶことの大変さを感じていると思う。

あり方検討会の答申を受けて、早急に子供たちのために学校の再編が必要であると、今年度は特に強く感じた。

鈴木委員 現場を見る中で、複式学級は、子供たちも大変だが、先生方も大変であると感じた。今年は、3人で体育の授業をしているところを拝見した。良い面も沢山あるが、大勢の中での経験が大切だと思う。

統合したときには、皆で良いところを考えて進めていかなければ、難しいと思う。

早馬委員 自身、大学生と高校生の保護者であり、成人していないため、教育の結果が分かっているわけではない。天方小学校や三倉小学校の複式学級を見ると不安を感じる。今の保護者で複式学級を経験した方はいないと思うが、だからこそ、余計に不安に感じるのではないかと思う。

子供は、生活環境や学校を自分で選ぶことができない。正解が見えない中ではあるが、適正な規模の中で平等に教育を受ける権利が、子供にはあると思う。

あまり小規模校に目を向けず、人口減少の問題を思うと、町全体を考え、かつ子供の育成がどうあるべきかを第一に考えて進むべきだと思う。

教育長 いろいろな声がある中で、私たちは教育サイドの立場で検討を行ってきた。

もともと、8校あることの課題が、年を重ねるごとに如実になってきている。

これからの森町の子供たちにとって、一番良い教育環境について、教育委員会の統一的な見解を示した。それが全てということではないが、ぜひ汲み取っていただき、可能な限り早急に方向性が出ると良いと思う。

町長 統合や統廃合というと暗いイメージになりがちである。確かに人口が減っていくことは避けられないことであるため、やむを得ないという現実を踏まえ、ただ縮小と暗く考えるのではなく、学校のあり方を森町にとって森町らしい子供を育てていく夢のあるものにしたいと思っている。あまり悲観的にならないよう取り組みたい。

本日は、第1回目ということで、教育委員会の見解を伺ったので、スタートとしたい。議事を終え、振興を事務局に戻す。

学校教育課長 その他ということで、2回目の総合教育会議について、町長からもあまり間隔を空けないうちにと話があったので、8月下旬を目途に日程を調整したい。

学校教育課長 閉会